

中心市街地の現状と課題について

(3) 中心市街地の現状に関する統計的なデータの把握・分析

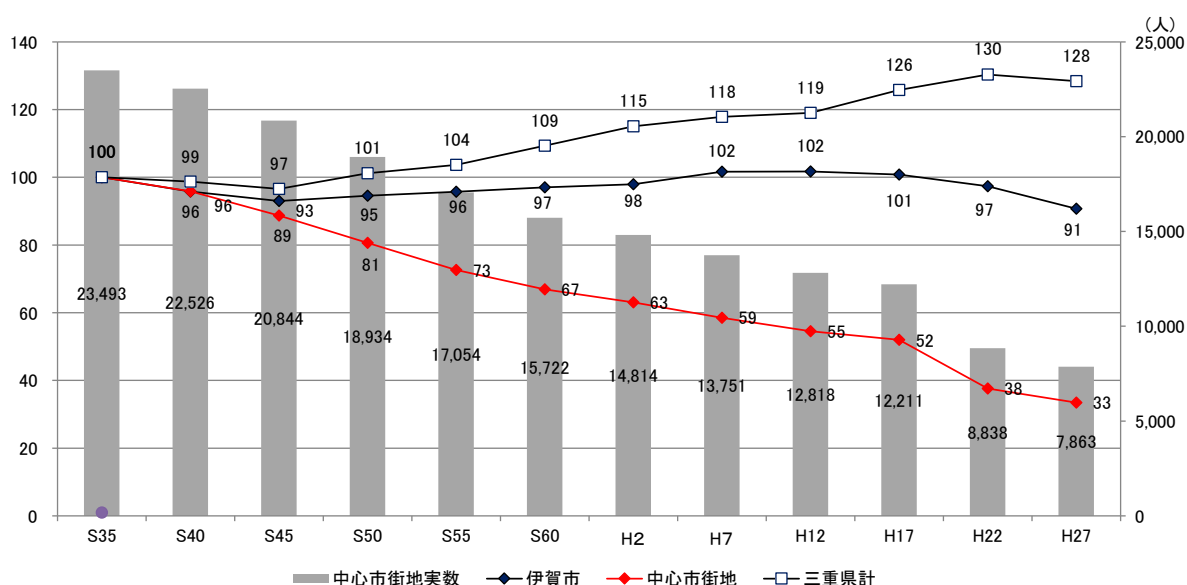
1) 人口動態に関する状況

① 中心市街地の人口

中心市街地の人口は、昭和 35 年の 23,493 人から平成 27 年の 7,863 人へ。

中心市街地の人口は、昭和 35 年の 23,493 人から平成 27 年の 7,863 人となり、過去 55 年間でほぼ 1 / 3 に減少し、この傾向は今後も続くと言想される。本市全体では人口は増加を続けていたが、平成 17 年には減少に転じた。三重県全体では平成 22 年にピークをむかえ減少している。

●人口推移のグラフ（昭和 35 年を 100 とした場合）



●人口推移の表

(単位：人)

	昭和35年	昭和40年	昭和45年	昭和50年	昭和55年	昭和60年	平成2年	平成7年	平成12年	平成17年	平成22年	平成27年
伊賀市	99,821	95,587	92,841	94,399	95,582	96,846	97,752	101,435	101,527	100,623	97,207	90,581
中心市街地	23,493	22,526	20,844	18,934	17,054	15,722	14,814	13,751	12,818	12,211	8,838	7,863
亀山市	39,148	38,638	37,817	39,617	40,578	42,810	45,045	46,128	46,606	49,253	51,023	50,254
津市	226,065	230,315	242,000	257,198	265,443	273,817	280,384	286,519	286,521	288,538	285,746	279,886
名張市	30,904	30,084	30,862	34,929	44,488	56,474	68,933	79,913	83,291	82,156	80,284	78,795
三重県計	1,485,054	1,514,467	1,543,083	1,626,002	1,686,936	1,747,311	1,792,514	1,841,358	1,857,339	1,866,963	1,854,742	1,815,865

※各年国勢調査、中心市街地：（～H17：該当する自治会別の各年9月末住民基本台帳データ、H22～：中活協全大会報告資料（各年度3月末日））

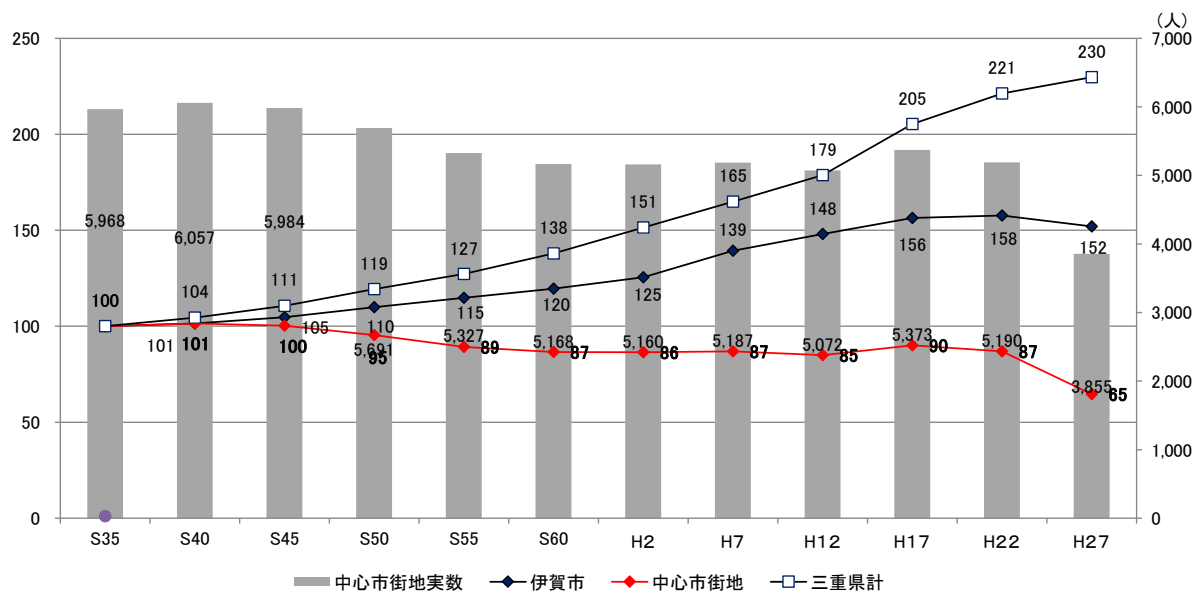
※伊賀市・亀山市・津市は、合併後の数字

② 中心市街地の世帯数

□ 世帯数は減少

三重県全体及び本市全体では5～15ポイントずつ増加しているが、本市全体では平成22年以降減少に転じ、中心市街地においては、昭和45年より減少傾向が続いている。平成17年は平成12年より5ポイント増加しているが、それ以降減少している。

● 世帯数推移のグラフ（昭和35年を100とした場合）



● 世帯数推移の表

(単位：世帯)

	昭和35年	昭和40年	昭和45年	昭和50年	昭和55年	昭和60年	平成2年	平成7年	平成12年	平成17年	平成22年	平成27年
伊賀市	22,136	22,447	23,179	24,339	25,421	26,458	27,777	30,849	32,774	34,620	34,915	33,651
中心市街地	5,968	6,057	5,984	5,691	5,327	5,168	5,160	5,187	5,072	5,373	5,190	3,855
亀山市	8,684	9,073	9,611	10,365	11,050	11,981	13,145	14,324	15,525	17,828	19,213	19,945
津市	50,739	55,540	62,706	70,394	76,282	81,685	88,815	97,668	102,795	109,332	113,092	114,679
名張市	6,564	6,882	7,627	8,899	11,803	15,272	19,490	24,005	26,716	28,334	29,481	30,595
三重県計	325,419	357,520	391,543	434,409	477,992	508,085	546,117	596,909	636,682	675,459	704,607	720,292

※各年国勢調査、中心市街地：(～H17:該当する自治会別の各年9月末住民基本台帳データ、H22～:中活協全大会報告資料(各年度3月末日))

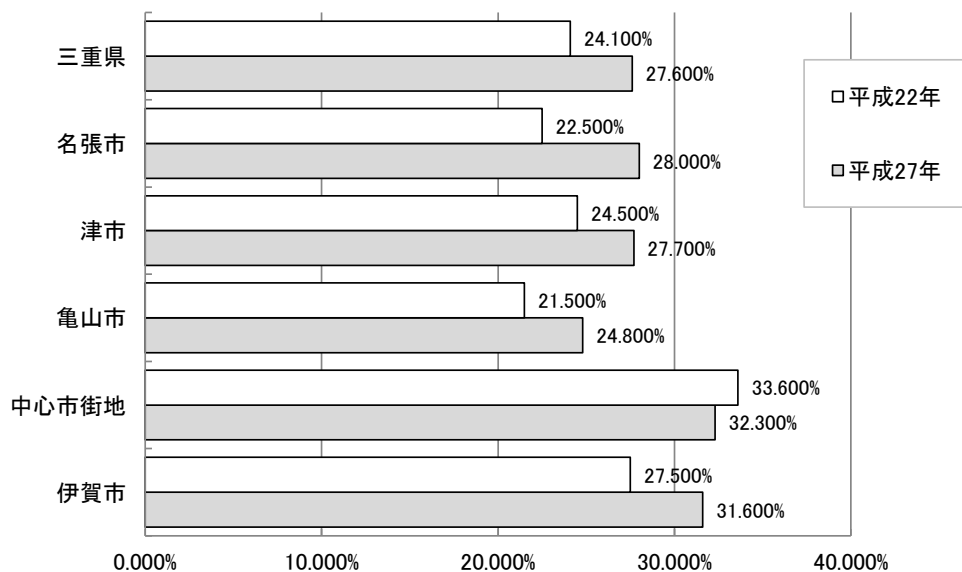
※伊賀市・亀山市・津市は、合併後の数字

③ 中心市街地の高齢化率

□ 中心市街地での高齢化率が減少に転じている

中心市街地の 65 歳以上の高齢者の割合は高くなっており、平成 12 年では 29.8% で、平成 27 年では 32.3% となり 3.1 人に 1 人は高齢者となっている。また、本市全体の高齢者の割合 31.6%（約 3.2 人に 1 人）と比較すると、概ね同じ割合となっている。

● 高齢化率の比較グラフ



● 高齢化率の比較表

(単位：人)

	平成12年			平成17年			平成22年			平成27年		
	人口	65歳以上	高齢化率	人口	65歳以上	高齢化率	人口	65歳以上	高齢化率	人口	65歳以上	高齢化率
伊賀市	101,527	23,366	23.0%	100,623	25,298	25.1%	97,207	26,733	27.5%	90,581	28,668	31.6%
中心市街地	12,828	3,820	29.8%	12,211	3,895	31.9%	8,838	2,966	33.6%	7,863	2,536	32.3%
亀山市	46,606	8,940	19.2%	49,253	10,062	20.4%	51,023	10,957	21.5%	50,254	12,440	24.8%
津市	286,521	46,971	16.4%	288,538	63,197	21.9%	285,746	69,937	24.5%	279,886	77,624	27.7%
名張市	83,291	12,440	14.9%	82,156	14,893	18.1%	80,284	18,066	22.5%	78,795	22,084	28.0%
三重県計	1,857,339	350,959	18.9%	1,866,963	400,647	21.5%	1,854,724	447,103	24.1%	1,815,865	501,046	27.6%

※各年国勢調査、中心市街地：（～H17：該当する自治会別の各年9月末住民基本台帳データ、H22～：中活協全大会報告資料（各年度3月末日））

④ 課題

三重県全体や本市全体では、人口及び世帯数が増加しているが、本市中心市街地においては、減少傾向が続いている。また、高齢化率については本市全体では約 3.1 人に 1 人に対し、中心市街地でも 3.1 人に 1 人の割合と高くなっている。今後、居住者の属性やニーズ、ライフスタイルに合った魅力ある住宅整備や施策などにより、街なか居住の促進を図り、中心市街地の空洞化を防いでいく必要がある。

2) 商業に関する状況 (※統計データ精査中)

①商業統計から見た中心市街地の小売商業の推移

(平成11年の数値に関しては、データが存在しないため、平成9年と平成14年の平均値を利用する)

□売場面積の拡大と店舗数の減少

中心市街地においては、店舗数、従業員数、年間販売額、売場面積すべてが大きく減少しており、深刻な商業の衰退がうかがえる。特に、年間販売額、売場面積の伊賀市全体の値との格差は大きく、これは平成10年頃から見られる相次ぐ郊外での大型店舗の出店などが大きく影響していると考えられる。

●小売商業の店舗数

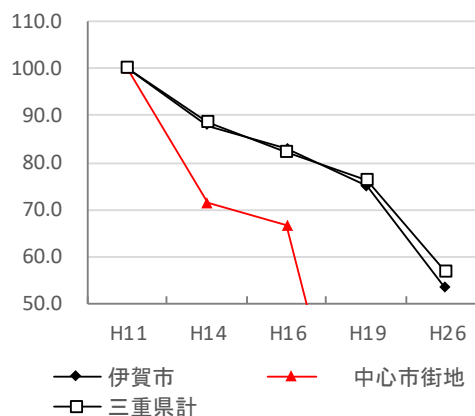
(単位: 店)

	平成11	平成14	平成16	平成19	平成26
伊賀市	1,293	1,136	1,073	969	688
中心市街地	300	214	200		
亀山市	491	480	447	401	288
津市	3,143	2,769	2,552	2,303	1,672
名張市	809	754	728	655	490
三重県計	22,955	20,297	18,886	17,466	12,997

(資料: 商業統計)

伊賀市・亀山市・津市は合併後の数字

H11を100とした場合	平成11	平成14	平成16	平成19	平成26
伊賀市	100.0	87.9	83.0	74.9	53.2
中心市街地	100.0	71.3	66.7	0.0	0.0
亀山市	100.0	97.8	91.0	81.7	58.7
津市	100.0	88.1	81.2	73.3	53.2
名張市	100.0	93.2	90.0	81.0	60.6
三重県計	100.0	88.4	82.3	76.1	56.6



●小売商業の従業員数

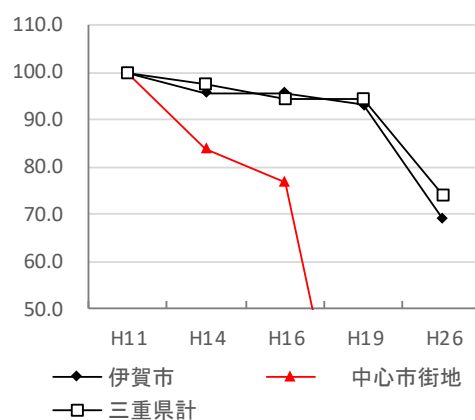
(単位: 人)

	平成11	平成14	平成16	平成19	平成26
伊賀市	6,322	6,044	6,050	5,885	4,356
中心市街地	1,334	1,120	1,025		
亀山市	2,474	2,540	2,442	2,624	1,886
津市	17,803	17,294	16,613	16,969	13,658
名張市	5,408	5,355	5,096	5,214	3,728
三重県計	119,581	116,512	113,049	112,723	88,534

(資料: 商業統計)

伊賀市・亀山市・津市は合併後の数字

H11を100とした場合	平成11	平成14	平成16	平成19	平成26
伊賀市	100.0	95.6	95.7	93.1	68.9
中心市街地	100.0	84.0	76.8	0.0	0.0
亀山市	100.0	102.7	98.7	106.1	76.2
津市	100.0	97.1	93.3	95.3	76.7
名張市	100.0	99.0	94.2	96.4	68.9
三重県計	100.0	97.4	94.5	94.3	74.0



●小売商業の年間販売額

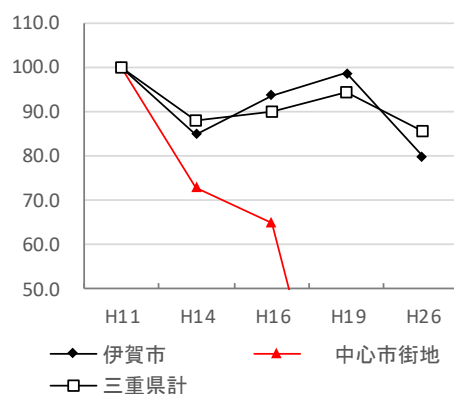
(単位:百万円)

	平成11	平成14	平成16	平成19	平成26
伊賀市	107,156	91,034	100,426	105,741	85,694
中心市街地	20,793	15,191	13,519		
亀山市	37,673	34,426	33,880	40,971	32,095
津市	312,517	274,652	284,189	303,084	308,914
名張市	79,161	75,034	81,683	79,374	69,406
三重県計	2,042,884	1,794,343	1,840,822	1,932,530	1,749,478

(資料:商業統計)

伊賀市・亀山市・津市は合併後の数字

H11を100とした場合	平成11	平成14	平成16	平成19	平成26
伊賀市	100.0	85.0	93.7	98.7	80.0
中心市街地	100.0	73.1	65.0	0.0	0.0
亀山市	100.0	91.4	89.9	108.8	85.2
津市	100.0	87.9	90.9	97.0	98.8
名張市	100.0	94.8	103.2	100.3	87.7
三重県計	100.0	87.8	90.1	94.6	85.6



●小売商業の売場面積

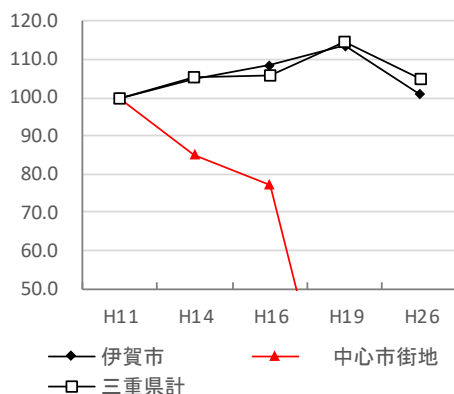
(単位:㎡)

	平成11	平成14	平成16	平成19	平成26
伊賀市	123,916	130,078	134,334	140,591	124,877
中心市街地	30,536	26,007	23,612		
亀山市	41,876	43,070	45,541	47,982	41,180
津市	353,629	361,473	374,233	427,491	391,079
名張市	115,325	121,834	122,921	133,219	139,757
三重県計	2,370,140	2,492,478	2,512,137	2,718,942	2,487,294

(資料:商業統計)

伊賀市・亀山市・津市は合併後の数字

H11を100とした場合	平成11	平成14	平成16	平成19	平成26
伊賀市	100.0	105.0	108.4	113.5	100.8
中心市街地	100.0	85.2	77.3	0.0	0.0
亀山市	100.0	102.9	108.8	114.6	98.3
津市	100.0	102.2	105.8	120.9	110.6
名張市	100.0	105.6	106.6	115.5	121.2
三重県計	100.0	105.2	106.0	114.7	104.9



②事業所数の推移

□中心市街地の事業所数は大幅に減少

中心市街地における事業所数の推移は、減少傾向にあり、平成8年では1,200件であったのが、平成26年では〇件となり約〇割減少している。三重県全体、亀山市、津市、名張市でも減少傾向にあるが、その減少傾向はゆるやかである。

●事業所数の推移

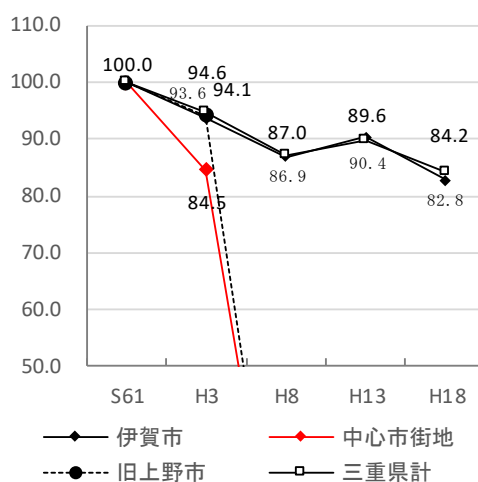
(単位: 店)

	平成8	平成13	平成18	平成21	平成26
伊賀市	5,372	5,028	4,669	4,856	4,448
中心市街地	1,200	1,014			
旧上野市	3,683	3,466			
亀山市	2,101	1,940	1,887	1,950	1,856
津市	14,592	13,542	12,188	12,550	11,913
名張市	3,196	3,261	3,257	3,148	2,960
三重県計	98,650	93,292	85,865	88,392	83,092

(～平成18: 事業・企業統計調査、平成21～: 経済センサス)

伊賀市・亀山市・津市は合併後の数字

H11を100とした場合	昭和61	平成3	平成8	平成13	平成18
伊賀市	100.0	93.6	86.9	90.4	82.8
中心市街地	100.0	84.5	0.0	0.0	0.0
旧上野市	100.0	94.1	0.0	0.0	0.0
亀山市	100.0	92.3	89.8	92.8	88.3
津市	100.0	92.8	83.5	86.0	81.6
名張市	100.0	102.0	101.9	98.5	92.6
三重県計	100.0	94.6	87.0	89.6	84.2

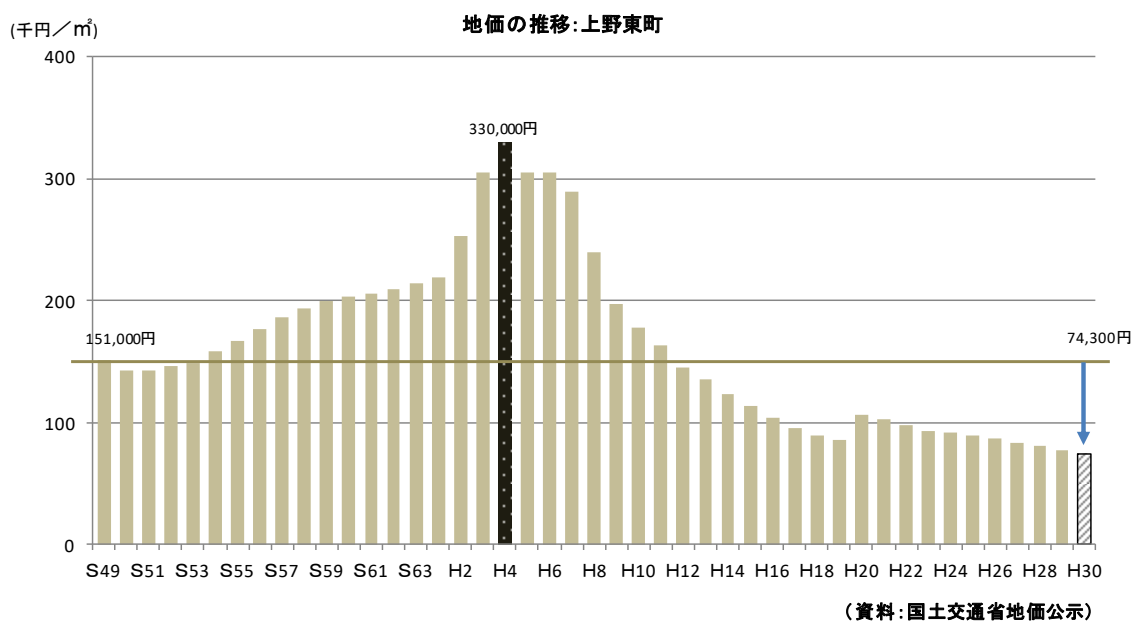


③地価の推移

□昭和 49 年以降最も地価が下落

中心市街地の地価は高騰を続け、平成 4 年には 330,000 円／㎡でピークを迎える。それ以降下落を続けており、中心商業区における上野東町の公示地価は、平成 30 年には 74,300 円／㎡となり、昭和 49 年以降最も地価が下落しており、ピーク時の平成 4 年の約 22.5% となっている。

●地価の推移グラフ（上野東町）



④伊賀市における地元購買率

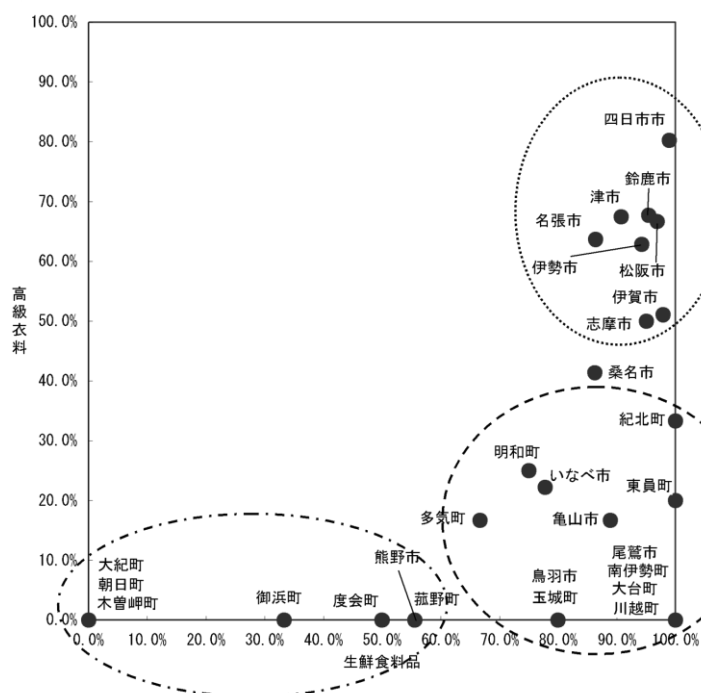
□地元購買率は「生鮮食料品」「その他食料品」が高く、「高級衣料」「くつ・靴」は低い

三重県の買物調査報告書（平成 23 年 3 月）によると、本市の地元購買率は概ね県下の他の市町と同様、「生鮮食料品」「その他食料品」が高く、「高級衣料」「くつ・靴」は低くなっている。

なお、本市は、四日市市・松阪市・鈴鹿市・津市・伊勢市・名張市などが属する「生鮮食料品、高級衣料とも高い」グループに属している。

●地元購買率

		件数	生鮮食料品	その他食料品	日用品雑貨	医薬品・化粧品	実用衣料	高級衣料	くつ・靴	家具・寝具・インテリア用品	時計・めがね・カメラ
北勢地域	桑名市	29	86.2%	89.7%	93.1%	82.8%	89.7%	41.4%	58.6%	82.8%	65.5%
	いなべ市	18	77.8%	77.8%	55.6%	77.8%	61.1%	22.2%	38.9%	27.8%	55.6%
	木曽岬町	3	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	東員町	5	100.0%	80.0%	20.0%	20.0%	60.0%	20.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	四日市市	91	98.9%	96.7%	95.6%	94.5%	93.4%	80.2%	80.2%	87.9%	87.9%
	菟野町	9	55.6%	77.8%	77.8%	55.6%	44.4%	0.0%	33.3%	0.0%	33.3%
	朝日町	3	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	川越町	1	100.0%	0.0%	100.0%	100.0%	100.0%	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%
中南勢地域	鈴鹿市	65	95.4%	95.4%	96.9%	93.8%	98.5%	67.7%	75.4%	84.6%	87.7%
	龜山市	18	88.9%	77.8%	83.3%	88.9%	55.6%	16.7%	11.1%	11.1%	44.4%
	津市	86	90.7%	90.7%	90.7%	84.9%	84.9%	67.4%	68.6%	83.7%	84.9%
	松阪市	63	96.8%	98.4%	96.8%	90.5%	96.8%	66.7%	79.4%	87.3%	90.5%
	多気町	6	66.7%	50.0%	16.7%	33.3%	33.3%	16.7%	33.3%	16.7%	16.7%
	明和町	8	75.0%	62.5%	87.5%	87.5%	62.5%	25.0%	37.5%	37.5%	37.5%
	大台町	3	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	33.3%	0.0%	0.0%	0.0%	33.3%
	伊勢市	35	94.3%	94.3%	91.4%	88.6%	82.9%	62.9%	71.4%	82.9%	77.1%
伊勢志摩地域	鳥羽市	10	80.0%	80.0%	30.0%	30.0%	40.0%	0.0%	0.0%	10.0%	10.0%
	志摩市	20	95.0%	95.0%	100.0%	100.0%	90.0%	50.0%	55.0%	50.0%	55.0%
	玉城町	5	80.0%	40.0%	40.0%	80.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	度会町	4	50.0%	50.0%	25.0%	50.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	南伊勢町	4	100.0%	75.0%	0.0%	25.0%	25.0%	0.0%	0.0%	0.0%	25.0%
	大紀町	1	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	伊賀市	47	97.9%	97.9%	89.4%	83.0%	78.7%	51.1%	61.7%	76.6%	72.3%
	名張市	22	86.4%	95.5%	90.9%	81.8%	90.9%	63.6%	77.3%	68.2%	68.2%
東紀州地域	尾鷲市	6	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	66.7%	0.0%	16.7%	16.7%	83.3%
	紀北町	3	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	33.3%	66.7%	33.3%	33.3%
	熊野市	4	50.0%	50.0%	50.0%	75.0%	25.0%	0.0%	50.0%	25.0%	25.0%
	御浜町	3	33.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	紀宝町	0									



⑤伊賀市の大型店舗の概要

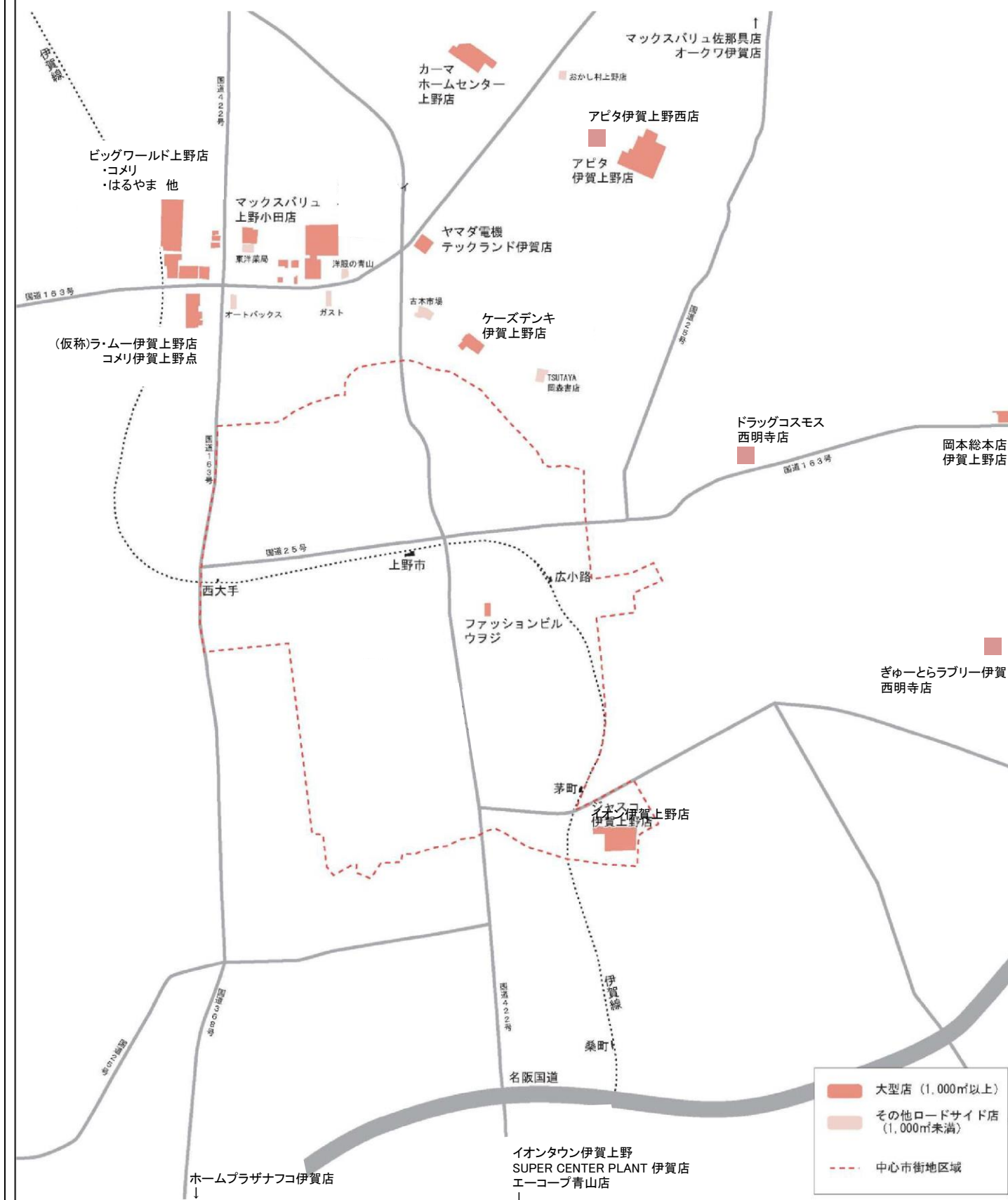
本市内に outlet している大型店舗の立地状況及び店舗面積 1,000 ㎡を超える大型店舗の概要は、以下のとおりである。中心市街地にある大型店舗は 2 店舗であり、その店舗面積の合計は 11,586 ㎡であるのに対し、郊外に立地するロードサイド型店舗は増加傾向にあり、店舗面積の合計は 92,746 ㎡となっている。

●伊賀市に outlet している大型店舗の一覧（店舗面積 1,000 ㎡以上）

店舗名称	所在地	店舗面積(㎡)	駐車場台数	店舗の新設をする日	備考
赤ちゃんこどもデパートナカムラ	上野忍町	1,045	5	昭和48年8月10日	(閉店)
ファッションビルウラジ	上野東町	1,461	0	昭和54年5月14日	
マックスバリュ上野小田店	小田町	4,004	196	平成5年12月3日	
オークワ上之庄店	上之庄	1,088	311	平成6年6月1日	(平成26年9月16日閉店)
イオン伊賀上野店	上野茅町	10,125	766	平成6年7月19日	
マックスバリュ佐那具店	佐那具町	2,371	165	平成7年11月22日	
アピタ伊賀上野店	服部町	15,661	1,082	平成9年11月14日	
ジョイシティ上野店	小田町	13,170	730	平成10年6月26日	廃止(平成30年2月20日閉鎖の為)
ケーヨーデイツー伊賀上野店	四十九町	3,581	104	平成10年7月9日	(平成29年4月2日閉店)
ビッグワールド上野店	小田町	11,638	424	平成10年12月10日	
上野ショッピングデパート	上野中町	1,263	20	平成11年3月1日	廃止(平成14年11月1日店舗面積減少の為)
カーマホームセンター上野店	服部町	7,152	50	平成11年12月2日	
岡本総本店伊賀上野店	西明寺	1,455	150	平成15年5月31日	
ケーズデンキ伊賀上野店	平野城北町	2,056	90	平成15年8月28日	
(仮称)ラ・ムー伊賀上野店/コメリ書房上野店	小田町	3,395	126	平成15年12月1日	
オークワ伊賀店	新堂	2,884	131	平成16年10月21日	
アピタ伊賀上野西店	服部町	1,814	251	平成19年7月23日	
ヤマダ電機テックランド伊賀店	平野清水	3,430	140	平成20年6月19日	
イオンタウン伊賀上野	四十九町	6,875	459	平成26年3月1日	
ホームプラザナフコ伊賀店	上之庄	4,277	148	平成28年8月16日	
ぎゅーとらブリー伊賀西明寺店	西明寺	2,605	113	平成28年12月29日	
ドラッグコスモス西明寺店	西明寺	1,544	62	平成30年6月28日	
エーコープ青山店	阿保	1,469	88	平成30年11月2日	
SUPER CENTER PLANT伊賀店	ゆめが丘	8,530	529	平成30年11月10日	

(資料：伊賀市)

●中心市街地周辺の大型店舗分布図



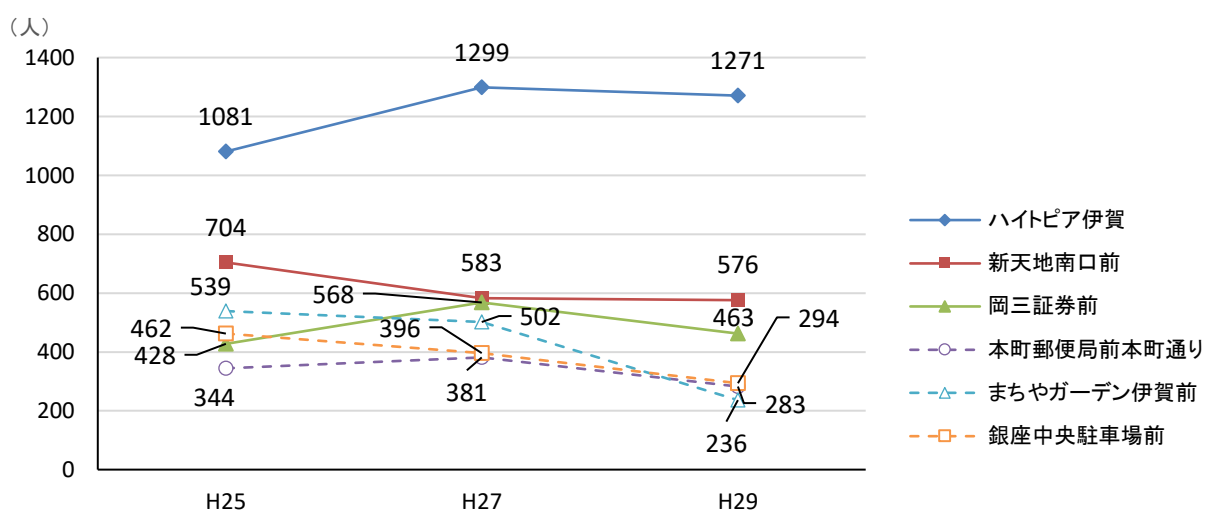
⑥歩行者・自転車通行量

□中心市街地主要地点での歩行者通行量が大幅に減少

中心市街地主要5地点における歩行者・自転車通行量は、全地点において大幅に減少している。特にまちやガーデン伊賀前調査地点では、平成25年には539人であったのが、平成29年には263人となり、4年間で半減している。

ハイトピア伊賀調査地点では、平成25年の1,081人から平成27年の1,299人に増加するものの、平成29年には1,271人に減少している。

●歩行者・自転車通行量の推移グラフ



●歩行者・自転車通行量の推移表

	H25	H27	H29	(単位: 人)
ハイトピア伊賀	1081	1299	1271	H29/H25
新天地南口前	704	583	576	-18.2%
岡三証券前	428	568	463	8.2%
本町郵便局前本町通り	344	381	283	-17.7%
まちやガーデン伊賀前	539	502	236	-56.2%
銀座中央駐車場前	462	396	294	-36.4%

(資料: 上野商工会議所通行量調査)

⑦課題

本市全体としてみると、小売商業の店舗数、従業員数は減少傾向にあり、年間販売額と売り場面積は横ばいまたは増加傾向にあったものの、平成26年には減少傾向に転じている。中心市街地においては、商業活動の全般にわたって依然として減少傾向にあり、今後も経済の衰退が一層進む可能性がある。本市の小売商業は、全体として郊外化、大型化による商業集積の力を高めつつ、中心市街地の衰退を招いているといえる。また、中心市街地では、歩行者・自転車通行量の大幅な減少や空き店舗の増加や後継者不足など、商業集積地としての機能を失いつつある。今後、魅力ある商業活性化策が求められる。

3) 観光に関する現況

① 中心市街地の観光施設別来場者数の推移

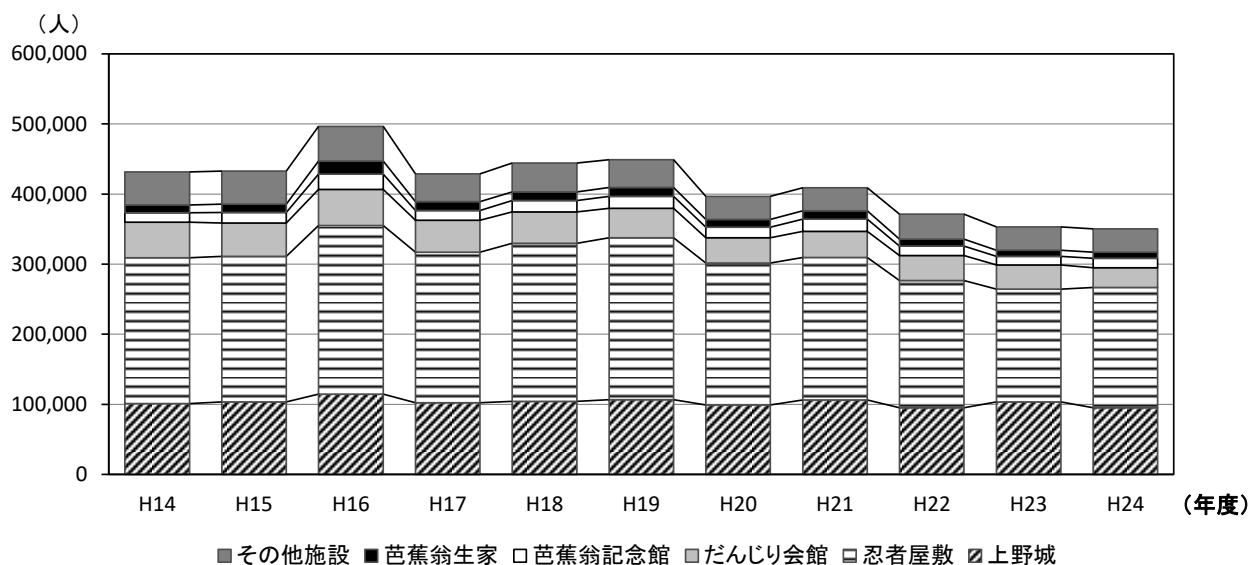
□ 観光施設への来場者数が大幅に減少

これまでの観光は、旅行会社が主催するツアーを利用した団体客が大型観光バスで名所や施設を周遊するというスタイルが主流であったが、インターネットの普及により個人や少人数のグループでの滞在型観光へと移行してきている。ガイドブックだけでは得られない情報を事前にインターネット等で収集し、まさに滞在してそのまちの暮らしや歴史、文化などを体験し、そこから感動を得ようとする観光のあり方になっている。本市においても、これまで上野城や忍者屋敷など拠点を周遊する観光が主流となっていたが、近年それらへの観光客数は減り続けている。今後、来街者が求める観光のあり方にマッチした資源を提供していくことで、これまでの施設依存型ではなく、幅の広いニーズにあった観光を生み出し、まち全体の回遊性の創出に寄与することが求められる。

本市における観光施設別来街者数の推移は、以下の通りであり、忍者屋敷が半数を占めており、ついで上野城となっている。

全観光施設の延べ来街者数は平成 16 年では 496,642 人であったのに対し、その後増減を繰り返し平成 24 年には 350,257 人まで減少している。

● 中心市街地の観光施設別来場者数の推移



②伊賀市内各地域別の施設及びイベント別入込客数

□観光施設は主に中心市街地に集積。歴史的祭りである上野天神祭には 10 万人

本市内の各地域にある施設は、それぞれの地域の特色をあらわし集客を図っているが、観光施設は主に旧上野地域にあたる中心市街地に集積している。また、施設といったハード面にだけ頼るのではなく、平成 28 年には約 10 万人の入込客数となった約 400 年の歴史を誇る上野天神祭や芭蕉祭、伊賀上野 N I N J A フェスタなど、祭りやイベントの実施にも力を入れている。しかし、中心市街地及び本市内各地域の観光施設の入込客数は大多数で減少傾向がみられ、祭りやイベントも平成 29 年には約 5 万人と半減している。

●伊賀市内各地域別の施設及びイベント別入込客数の推移

(単位:人)

	施設名	平成28年		平成29年	
旧上野市	上野城	109,076	4.77%	105,004	5.31%
	忍者屋敷	197,206	8.62%	191,429	9.68%
	伊賀越資料館	2,131	0.09%	1,617	0.08%
	伊賀信楽古陶館	642	0.03%	555	0.03%
	だんじり会館	26,668	1.17%	26,469	1.34%
	芭蕉翁生家	6,754	0.30%	5,975	0.30%
	蓑虫庵	5,108	0.22%	4,966	0.25%
	芭蕉翁記念館	12,550	0.55%	12,719	0.64%
	旧小田小学校本館	2,315	0.10%	2,461	0.12%
	伊賀くみひもセンター	12,510	0.55%	15,195	0.77%
	ウェルサンピア伊賀		0.00%		0.00%
	上野天神祭	56,000	2.45%	18,000	0.91%
	忍者フェスタ	40,000	1.75%	36,000	1.82%
	芭蕉祭	500	0.02%	500	0.03%
旧伊賀町	余野公園	44,773	1.96%	42,751	2.16%
	道の駅「いが」	387,477	16.94%	347,936	17.59%
旧島ヶ原村	スタンプコース				
	行者堂				
	正月堂	15,310	0.67%		
	まちかど博物館醤油蔵	5,587	0.24%	4,320	0.22%
	島ヶ原温泉やぶっちゃん	143,206	6.26%	4,320	0.22%
旧阿山町	モクモク手づくりファーム	314,290	13.74%	301,296	15.23%
	ふるさとの森公園	21,974	0.96%	8,709	0.44%
	道の駅あやな	248,592	10.87%	244,852	12.38%
旧大山田村	さるびの温泉	263,060	11.50%	238,666	12.07%
	新大仏寺	43,500	1.90%	3,675	0.19%
旧青山町	青山高原	198,470	8.68%	238,880	12.08%
	メナード青山	129,688	5.67%	121,614	6.15%
	合計	2,287,387		1,977,909	

(資料:伊賀市)

※全体を100%として各施設の割合を表示している。網掛は中心市街地内

③伊賀市内各地域別の施設別入込客数比較

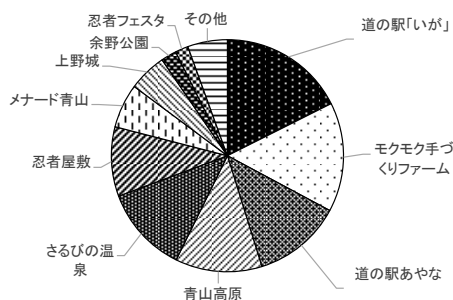
□郊外の施設への入込客数が上位を占める。中心市街地の施設の再構築が必要

本市内各地域別の施設別入込客数を比較すると、高原や温泉など郊外に立地する施設への入込客数が上位を占める。中心市街地にある施設で最も入込客数の多い忍者屋敷が6位となっている。今後、中心市街地の各施設の再構築を図るとともに、新たな魅力ある施設の建設など、本市独自の歴史や文化を発信する施設を整備することで、中心市街地のにぎわい回復や回遊性の創出につなげることが重要である。

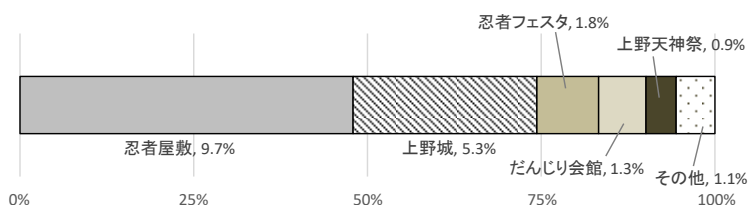
●伊賀市各地域別の施設別入込客数上位 10 位（平成 29 年）

（単位：人）		
1	道の駅「いが」	347,936 17.59%
2	モクモク手づくりファーム	301,296 15.23%
3	道の駅あやな	244,852 12.38%
4	青山高原	238,880 12.08%
5	さるびの温泉	238,666 12.07%
6	忍者屋敷	191,429 9.68%
7	メナード青山	121,614 6.15%
8	上野城	105,004 5.31%
9	余野公園	42,751 2.16%
10	忍者フェスタ	36,000 1.82%
	その他	109,481 5.54%

網掛は中心市街地にある施設（資料伊賀市）



●中心市街地における施設別入込客数の割合（平成 29 年）



④課題

本市は俳聖松尾芭蕉生誕の地であり、上野城をはじめとする忍者屋敷、芭蕉翁記念館など数多くの観光資源に恵まれている。しかし、中心市街地における各施設の入込客数をみると、忍者屋敷が約 58% を占め、上野城と合わせると約 90% となっており、本市の観光のイメージが固定化されていることが伺える。また、郊外に立地する青山高原やモクモク手づくりファームのように、施設をめぐるだけの観光から、体験や交流などといった近年の観光のあり方の変化や、各施設への来場者総数が平成元年のピーク時から半減していることから、本市においても観光ニーズの変化に対応し、新たな観光のイメージやあり方を創出する必要がある。また、観光資源の大多数が上野市駅北側に集積しており、来街者がまちなかへ回遊していないのが現状である。中心市街地には歴史的な建築物や町家が数多く分布し、伝統的なまちなみを形成しており、今後これらの活用による魅力ある店舗づくりなどにより、既存の観光資源とまちなかの回遊性を創出し、中心市街地のにぎわい回復につなげることが重要である。

4) 公共交通に関する現況 (※現行計画時点データのため更新予定)

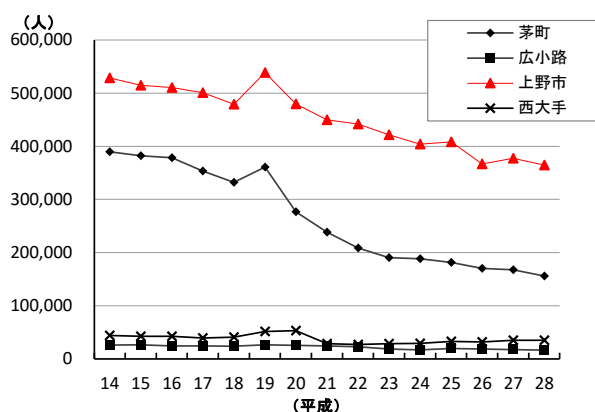
①伊賀線・大阪線及びJR関西本線 年間乗車人員数(総数)推移

口上野市駅乗車人員の大幅な減少

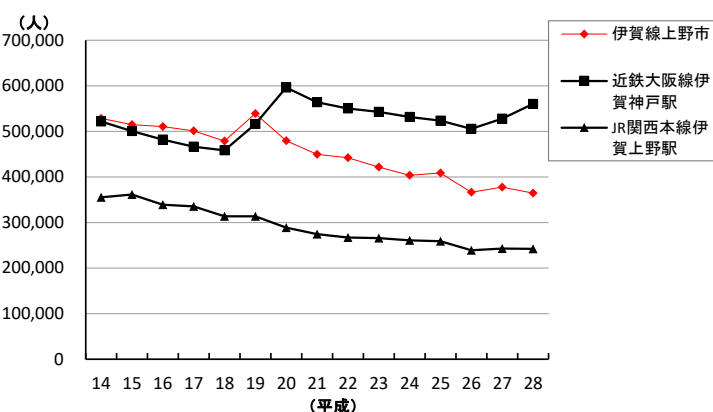
伊賀線 14 駅のうち、中心市街地にある上野市駅、広小路駅、茅町駅、西大手駅の乗車人員は、約 7 割を占めている。広小路駅、茅町駅、西大手駅の 3 駅はほぼ横ばいの推移を示しているが、上野市駅の乗車人員においては平成 14 年の 528,775 人から平成 28 年では 364,493 人となり減少傾向にある。これは、他の 3 駅はこれまで周辺住民の生活に密着した利用がなされているのに対し、上野市駅は名張市を含む伊賀地域からの利用や JR 関西本線や近鉄大阪線と中心市街地を結ぶ伊賀線を利用する大阪や名古屋といった広域からの来街者が減少していることが伺える。また、伊賀線、近鉄大阪線、JR 関西本線の各主要駅である上野市駅、伊賀神戸駅、伊賀上野駅を比較するといずれも減少傾向にあるが、上野市駅においては特に著しい減少となっている。

(近鉄伊賀線は平成 19 年 10 月より第三セクター伊賀鉄道㈱に移行)

●中心市街地における伊賀線 4 駅比較



●3路線主要駅比較



路線・駅		年度	14年	15年	16年	17年	18年	19年	20年	21年	22年	23年	24年	25年	26年	27年	28年
伊賀線	茅町		389,531	382,018	378,331	353,461	332,045	361,031	276,759	238,632	208,673	190,602	188,603	181,671	170,000	167,356	156,076
	広小路		26,151	26,453	24,283	24,355	23,914	26,230	25,177	24,485	22,457	18,344	17,045	19,291	18,257	17,425	16,233
	上野市		528,775	515,056	510,417	500,957	479,110	539,020	479,640	449,763	442,030	421,654	403,948	408,439	366,534	377,677	364,493
	西大手		43,741	42,515	42,211	39,366	40,848	51,409	52,808	28,707	27,118	28,328	28,835	32,842	31,878	34,984	34,988
近鉄大阪線	伊賀神戸		521,471	500,725	481,953	466,757	458,295	516,072	596,372	563,840	550,122	542,619	531,658	523,351	505,909	527,983	560,129
JR関西本線	伊賀上野		355,145	361,608	339,075	335,127	313,756	313,617	288,748	274,485	266,903	266,000	261,000	259,000	239,000	243,000	242,000

(資料:三重県統計書)

② 中心市街地へのアクセスバスの運行状況

口広域では名古屋線、市内ではコミュニティバスの本数及び利用者が多い

中心市街地と広域を結ぶ路線では、三重交通の高速名古屋線の運行本数 18 本（土・日 22 本）、高速伊賀大阪線の 12 本、三重交通・奈良交通の上野天理・上野山添線 13 本があり、特に名古屋への利用者数が多い。

特に中心市街地内を循環する「上野コミュニティバスしらさぎ」の運行本数が 22 本となっており、また年間利用者数は 58,048 人となっている。

● 中心市街地へのアクセスバス現況

運行会社	路線名称	運行本数		年間利用者数 (人)	備考
		平日	休日		
三重交通㈱	高速横浜・品川線	2	2		
三重交通㈱	高速名古屋線	18	18	110,886	(H17. 10. 1～H18. 9. 30) 1 便あたり 15.8 人
三重交通㈱	高速伊賀大阪線	12	12		
三重交通㈱	上野名張線	28	26		
伊賀市から三重交通㈱へ運行委託	諏訪線	15	12	30,225	H17 年実績（年間）
三重交通㈱	上野市内線	4	4		
伊賀市から三重交通㈱へ運行委託	西山線	23	20	60,016	H17 年実績（年間）
三重交通㈱	阿波線	23	19		
三重交通㈱	玉滝線	18	16		
伊賀市から三重交通㈱へ運行委託	柘植本線	14	10	35,650	H17 年実績（年間）
伊賀市から三重交通㈱へ運行委託	島ヶ原線	10	10	33,632	H17 年実績（年間）
伊賀市から三重交通㈱へ運行委託	友生線	12	11	27,746	H17 年実績（年間）
伊賀市から三重交通㈱へ運行委託	予野線	8	8	17,966	H17 年実績（年間）
三重交通㈱・奈良交通㈱	上野天理・上野山添線	13	13		
伊賀市から三重交通㈱へ運行委託	月瀬線	9	9	17,693	H17 年実績（年間）
伊賀市から三重交通㈱へ運行委託	上野コミュニティしらさぎ	22	19	58,048	H17 年実績（年間）

（伊賀市調べ）

③ 課題

鉄道に関しては、広域からのアクセスとして関西本線や近鉄大阪線があり、そこからまちなかへのアクセスとして伊賀線が運行している。また、路線バスについては、広域からのアクセスとして高速バスが乗り入れ、周辺地域とまちなかを路線バスがつないでいる。さらにはコミュニティバスしらさぎが市内を循環する。これらの交通機関はすべて上野市駅前（上野産業会館）が結節点となっており、ここをひとつの核として整備するとともに、まちなかへの発着点としての役割が求められる。周辺と中心市街地を結ぶ伊賀線の利用者は減少が続いており、上野市駅前地区第一種市街地再開発事業による利用促進、伊賀線駅周辺におけるイベント実施など、利用促進が課題となっている。

[illegible]